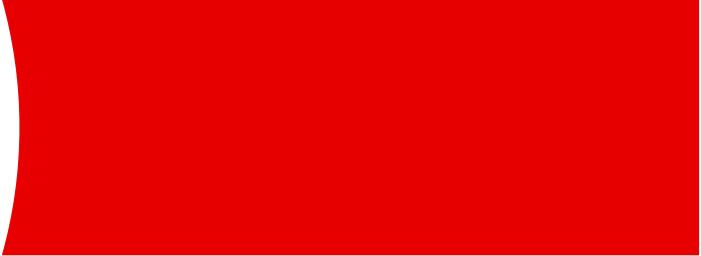


グラフで見る東海経済 (2019年5月)



2019年5月23日

調査部 主任研究員 塚田裕昭

今月の景気判断 ～東海経済は横ばい圏で推移している。

項目	現状	前月
1. 景気全般	横ばい圏で推移している	—
2. 生産	横ばい圏で推移している	—
3. 輸出	横ばい圏で推移している	—
4. 輸入	横ばい圏で推移している	—
5. 設備投資	増加している	—
6. 雇用	改善している	—
7. 賃金	持ち直しの動きがみられる	—
8. 個人消費	持ち直しの動きがみられる	—
9. 住宅投資	横ばい圏で推移している	—
10. 公共投資	増加している	—

(注) シャド一部分は前月と比較して見方を変更した項目
前月のコメントが現状と同じ場合は—と表記

【今月のポイント】

- 3月の東海の生産は、輸送機械がマイナス寄与となり、2ヶ月ぶりに減少した。
- 3月の金属工作機械受注も減少。5ヶ月連続で前年比2桁減となっている。
- 東海経済は、家計部門に持ち直しの動きが見られる一方、企業部門は足踏み状態となっており、総じて横ばい圏で推移している。

1. 景気全般 ～横ばい圏で推移している(先行き:緩やかに持ち直し)

■ MURC東海景気動向指数

- 2月のMURC東海景気動向指数(CI一致指数)は、前月差+3.2の103.5と上昇した。
- 採用系列すべてがプラス寄与となり、なかでも鉱工業生産、人件費比率、大型小売店販売額の改善が全体を引き上げた。



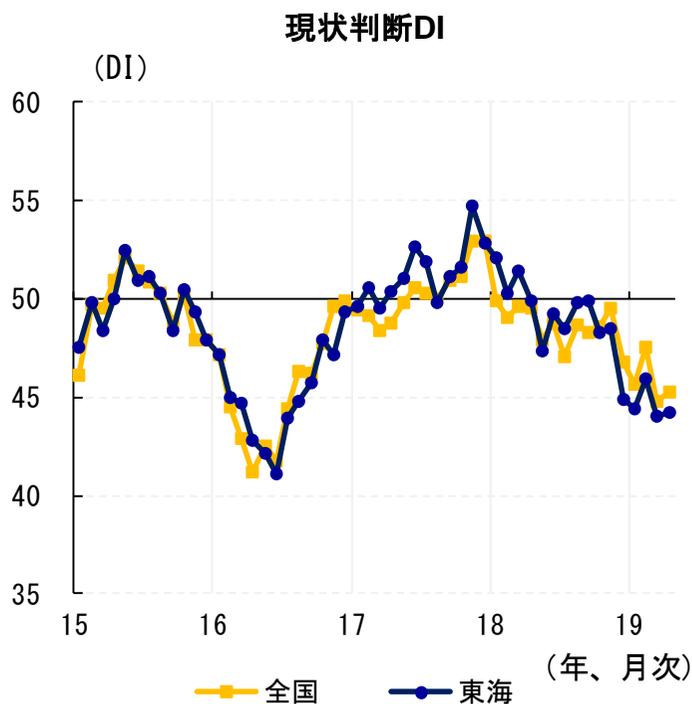
(出所)内閣府「景気動向指数」、MURC

(注) 東海動向指数の採用系列は、鉱工業生産、同(金属工作機械)、有効求人倍率、人件費比率、大型小売店販売額、実質輸入、所定外労働時間の7系列。

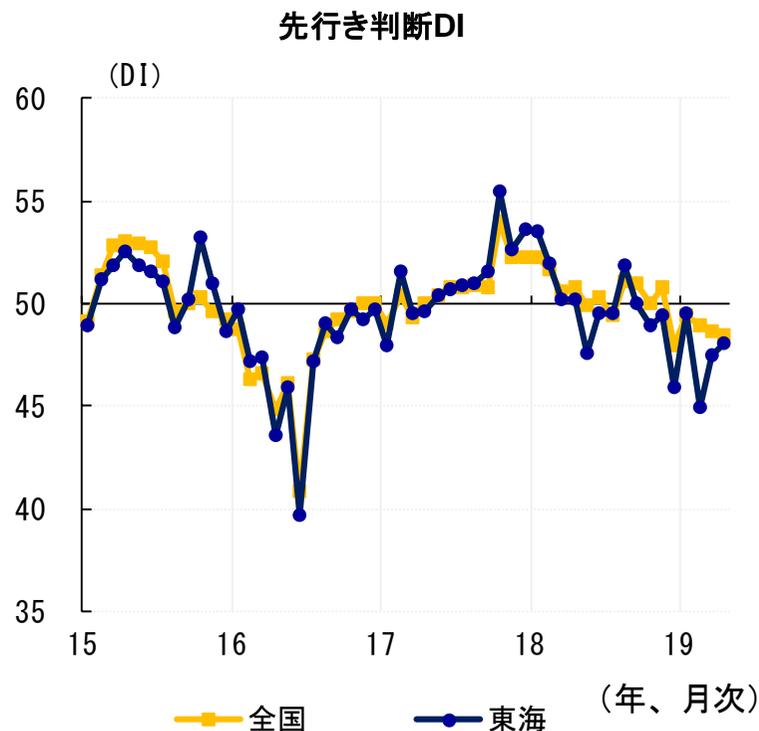
1. 景気全般

■ 景気ウォッチャー調査

- 東海の景気マインドは弱い動きが見られる。4月の東海4県の景気ウォッチャー調査では、足元の景況感を示す現状判断DI(季節調整値)は、悪化方向の回答減により、前月差+0.2ポイントの44.2と小幅上昇したが、横ばいを示す50を下回っている。
- 先行き判断DI(同)は同+0.5ポイントの48.0と2ヶ連続で上昇したが、50を下回っている。大型連休の消費増の反動や、外需の不透明性が懸念されている。



(注) DIは季節調整値
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」



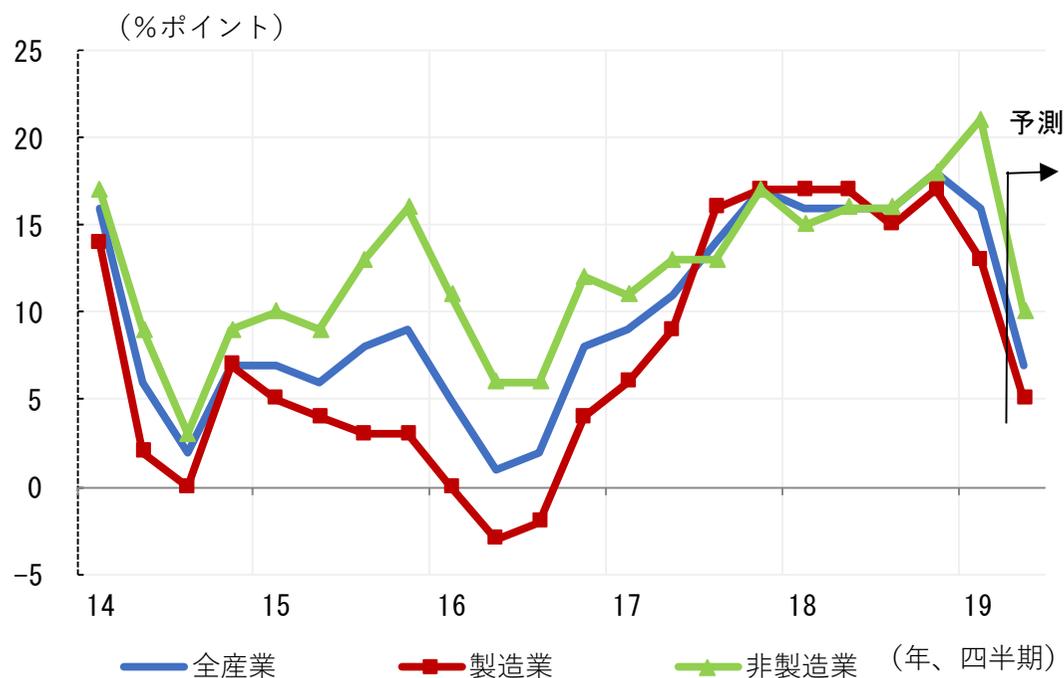
1. 景気全般

コメント、グラフ共に前回から変更なし

■ 日銀短観

- 日銀短観3月調査によると、東海3県の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業[全規模](+16%pt)で前期から2%pt低下した。非製造業[全規模]は+21%ptと前期から3%pt上昇したが、製造業[全規模]が+13%と、4%pt低下した(はん用機械が大きく低下)。
- 先行きは、製造業-8%pt、非製造業-11%ptと、いずれも悪化が見込まれている。

業況判断DI(東海・全規模)



(出所) 日本銀行名古屋支店「企業短期経済観測調査」(短観)

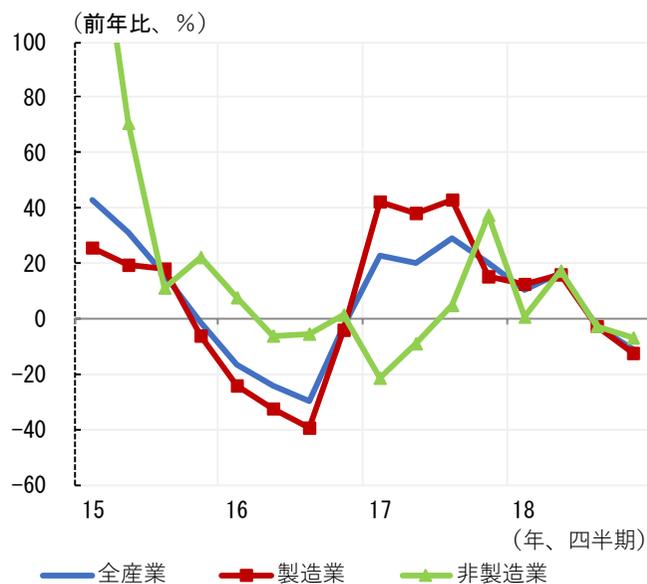
1. 景気全般

コメント、グラフ共に前回から変更なし

■ 法人企業統計調査、日銀短観

- **法人企業統計調査**によると、2018年10～12月期の東海4県の大企業の経常利益(全産業)は前年比-10.8%と2四半期連続で減少した。内訳をみると、製造業(同-12.3%)が二桁減となったほか、非製造業(同-7.0%)も減少した。
- **日銀短観3月調査**によると、東海企業の18年度の経常利益(見込み)は全産業で前年比-3.7%と、前回12月(同-2.0%)から下方修正された。非製造業は前回の同+0.6%から同+3.5%へ上方修正されたが、製造業が同-2.8%から同-6.1%と下方修正された。19年度については、製造業(同-0.6%)、非製造業(同-1.5%)ともに減益が予想されている。

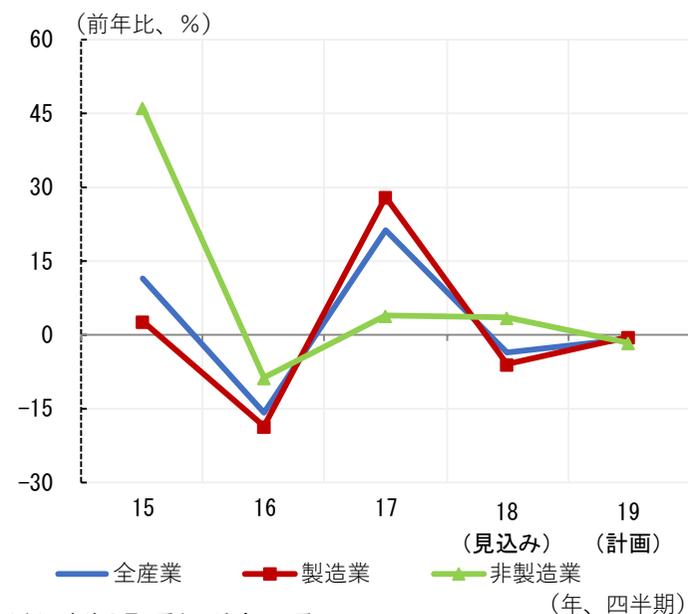
東海の大企業の経常利益(法人企業統計)



(注) 資本金10億円以上の法人(除く金融・保険)

(出所) 東海財務局「法人企業統計調査」

東海の企業の経常利益(日銀短観)



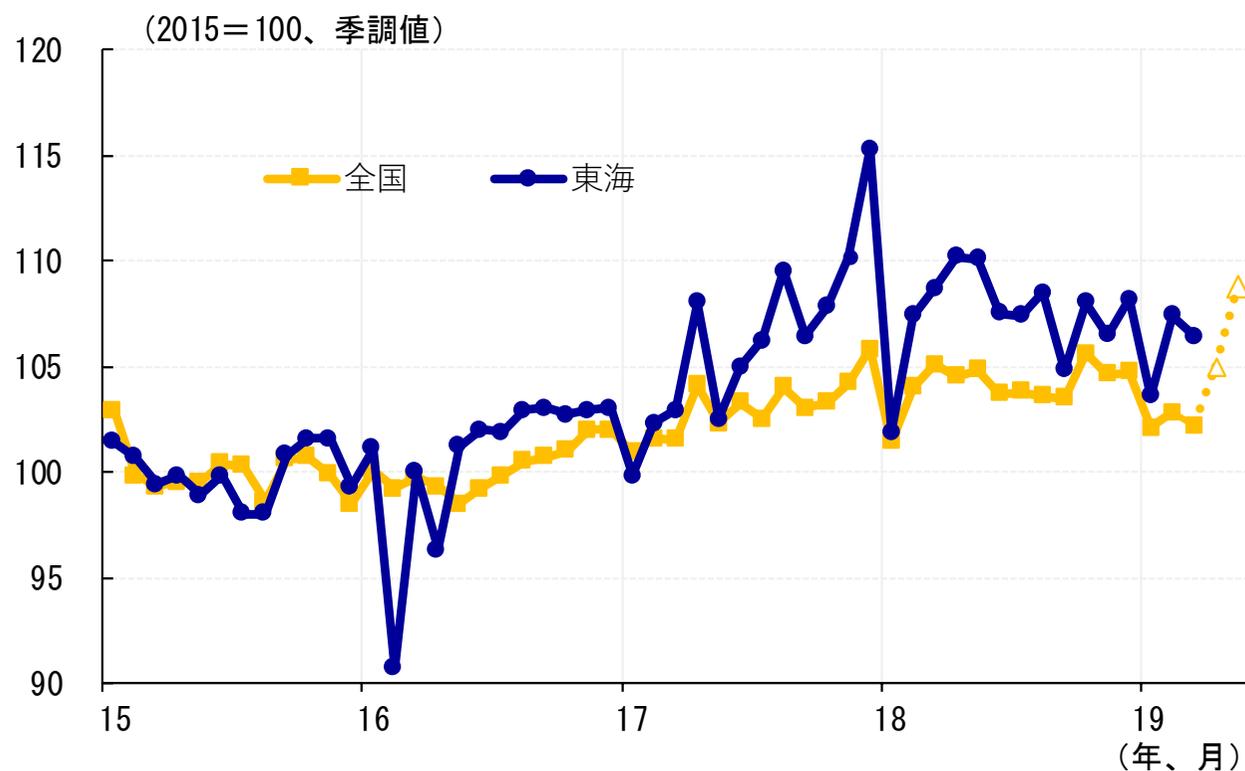
(注) 東海3県=愛知、岐阜、三重。

(出所) 日銀、同名古屋支店「企業短期経済観測調査」

2. 生産～横ばい圏で推移している（先行き:緩やかに持ち直し）

■ 鉱工業生産指数

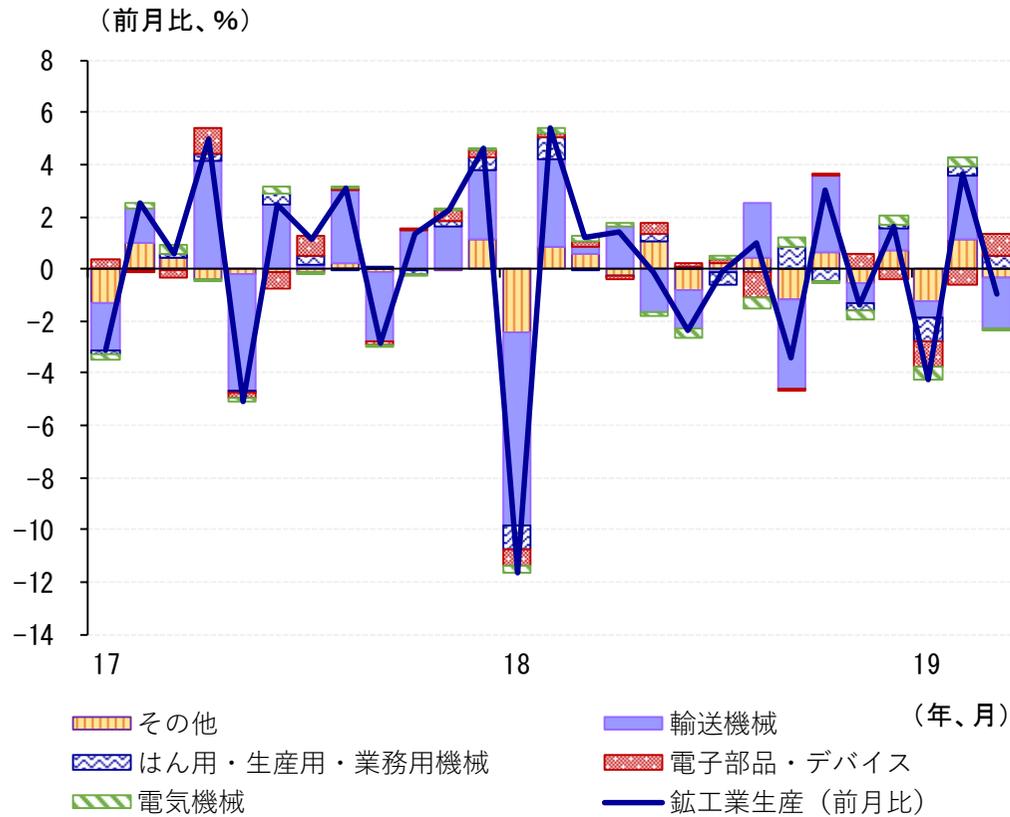
- 東海の実績は、均して見ると、横ばい圏で推移している。
- 3月の東海3県の**鉱工業生産**は、前月比-0.9%と2ヶ月ぶりに減少した。電子部品・デバイスはやや持ち直したが、輸送機械が減少し、全体を下押しした。



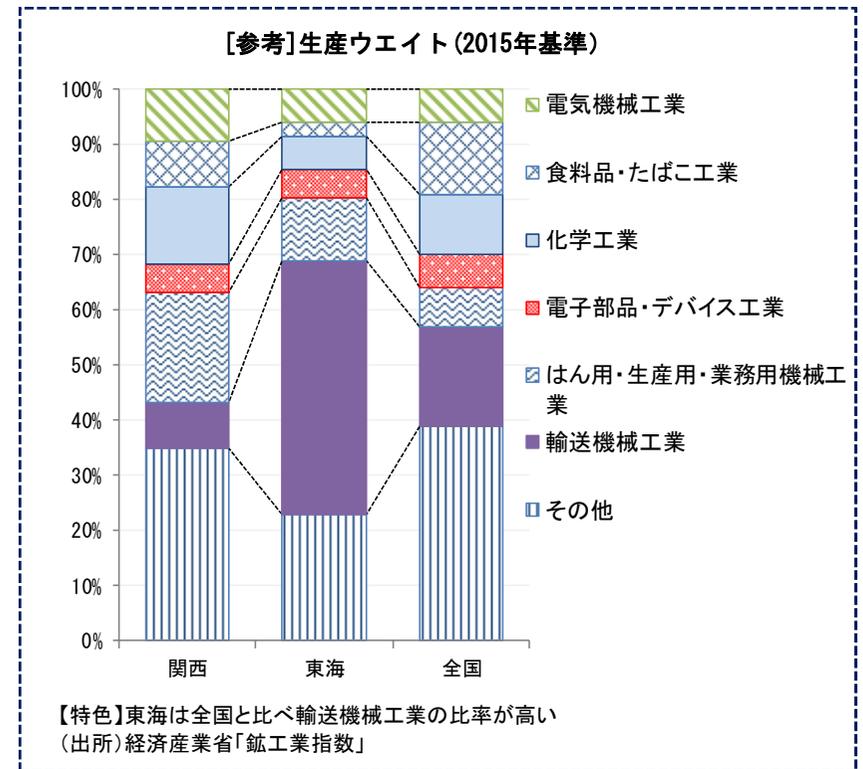
(注) 1. 生産（全国）の「△」は製造工業生産予測調査結果に基づく予測。

(出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」、
経済産業省「鉱工業指数」

2. 生産

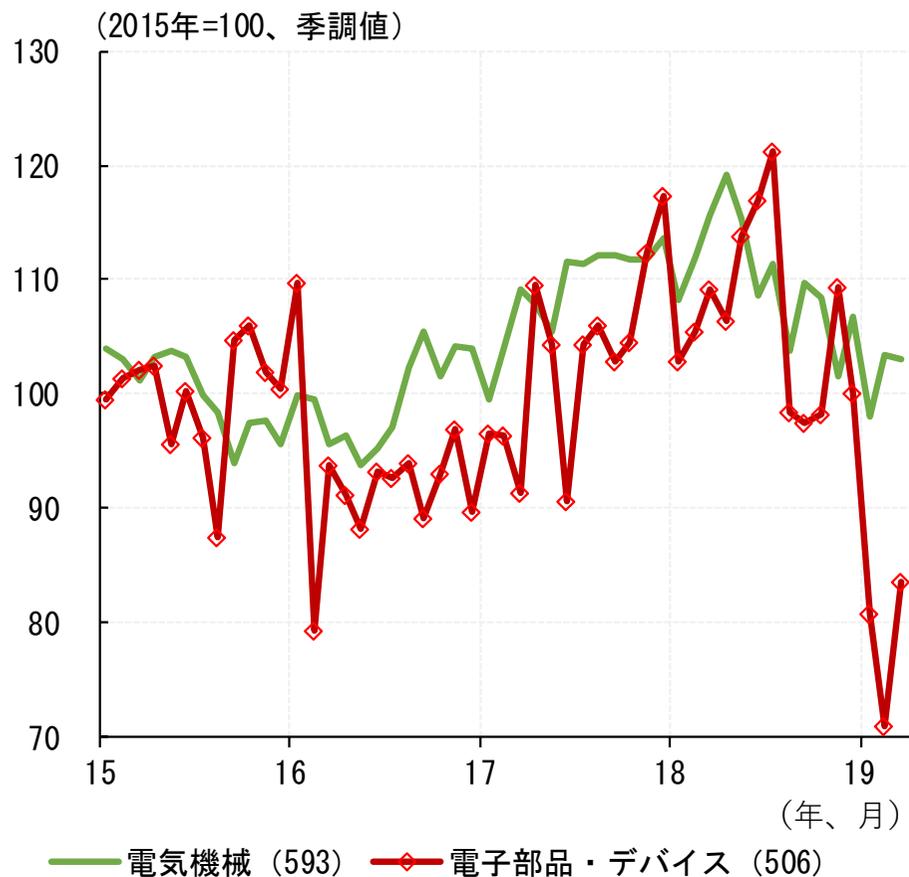


(出所) 中部経済産業局「鋳工業生産動向」

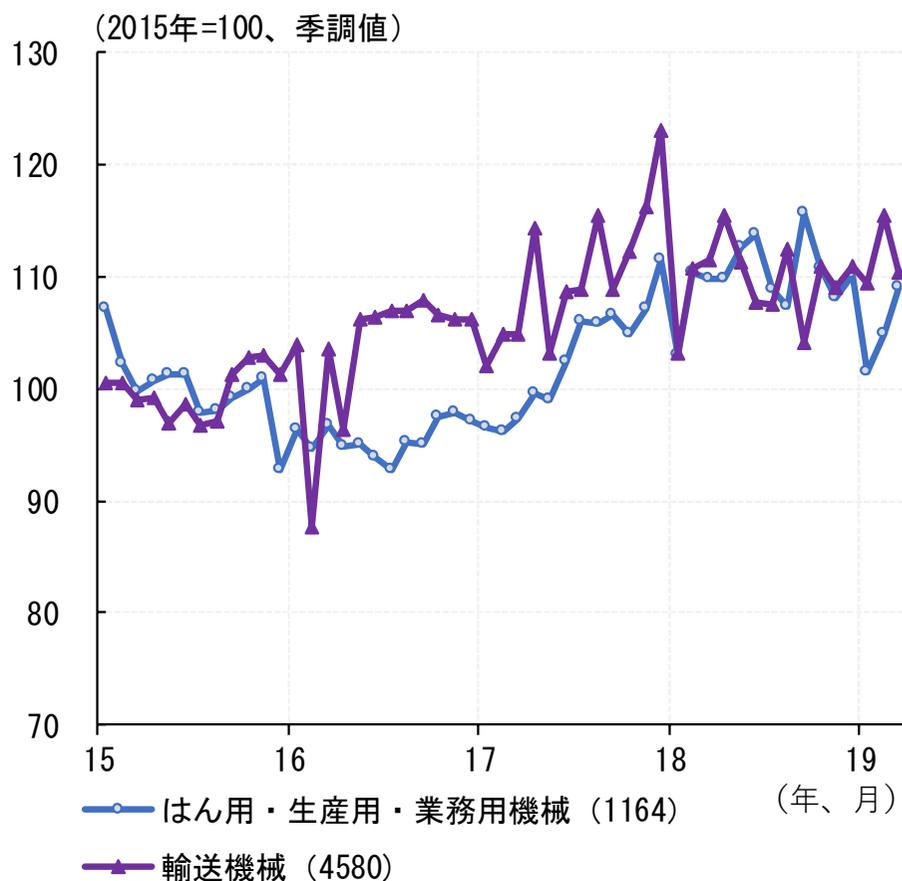


2. 生産

業種別生産



(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業=10,000)
 (出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」



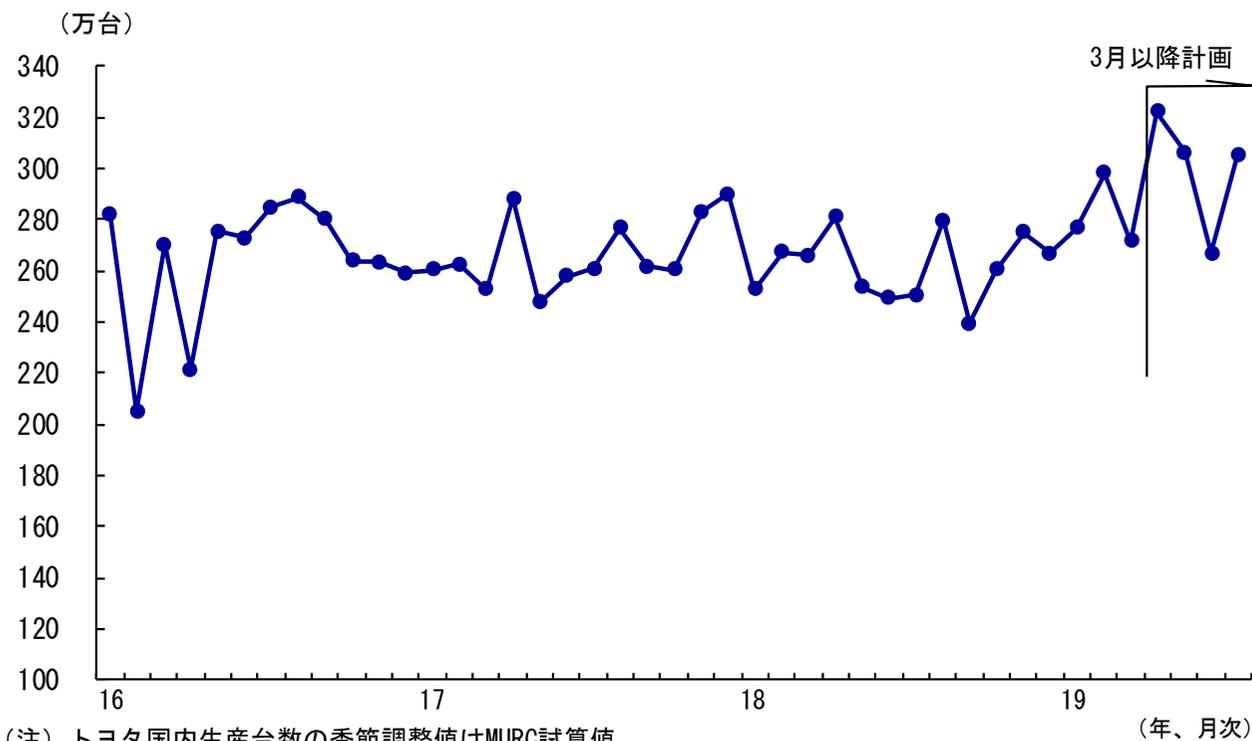
(注) 凡例の括弧内の数字は付加価値ウエイト(鉱工業=10,000)
 (出所) 中部経済産業局「鉱工業生産動向」

2. 生産

■トヨタ自動車国内生産計画

- 中部経済新聞社報道のトヨタ自動車国内生産計画によると、18年3～19年7月の国内日当たり生産台数は1万4,000台半ば程度で推移する見込みである。
- 季節調整済みの数字(MURC試算)で見ると、先行きは高水準横ばいの推移が見込まれる。

生産台数(季節調整値)



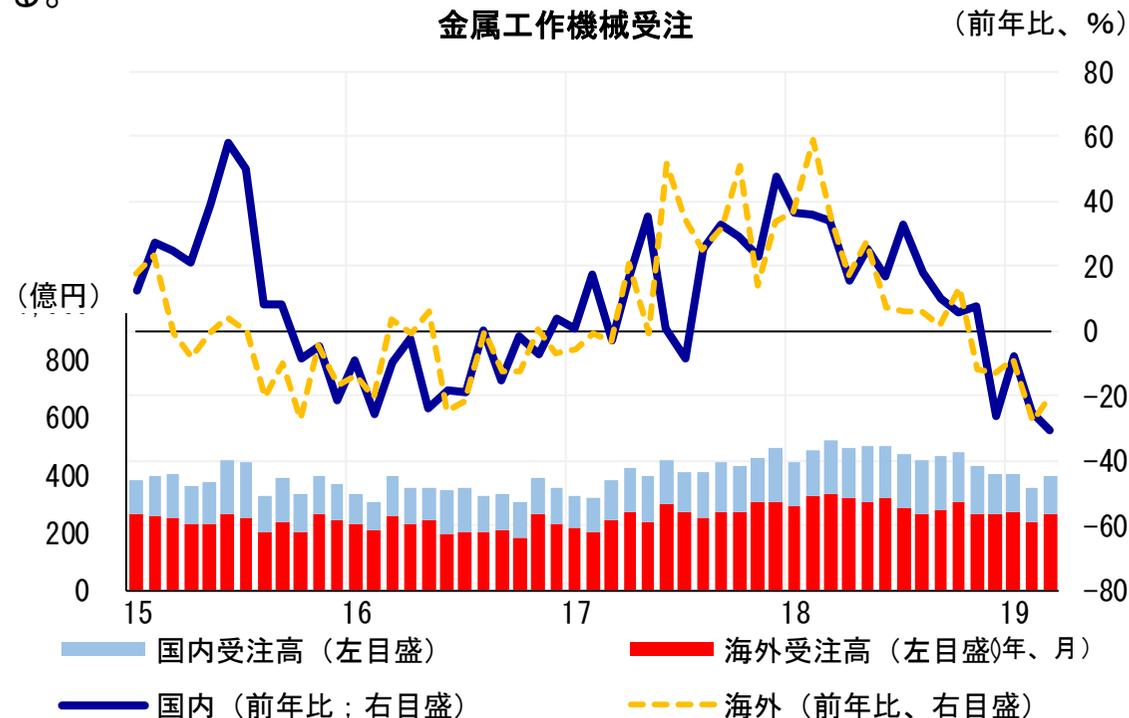
(注) トヨタ国内生産台数の季節調整値はMURC試算値。

(出所) トヨタ自動車「生産・国内販売・輸出実績」、中部経済新聞

2. 生産

■ 金属工作機械受注(東海)

- 3月の金属工作機械受注は前年比-24.0%と5ヶ月連続で減少した。国内受注(同-30.9%)、海外受注(同-20.1%)ともに減少した。
- 国内受注は自動車向け(同-27.5%)、電気機械工業(同-66.4%)など全業種が減少した。海外受注は中国向け(同-17.1%)、米国向け(同-29.2%)、EU向け(同-19.3%)と主要地域で2桁減となっている。

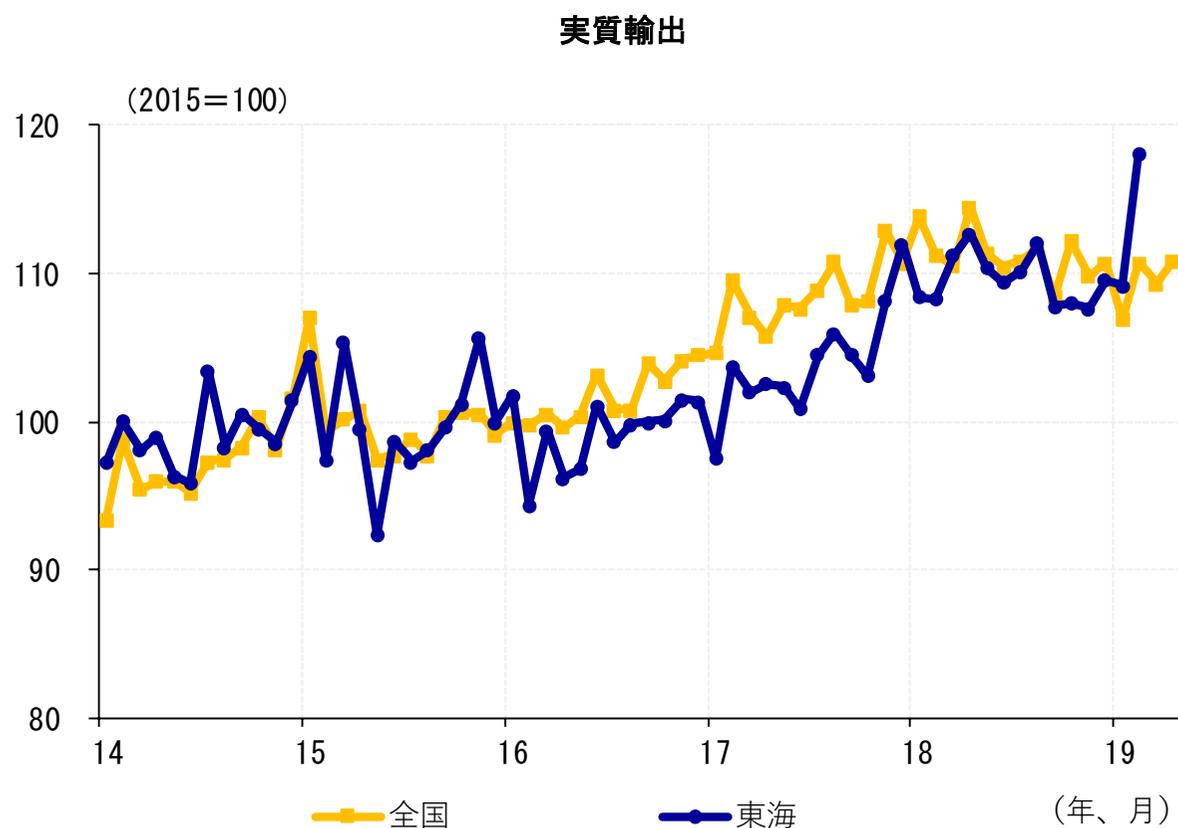


(注) 東海は、中部経済産業局管内の主要8社
(出所) 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

3. 輸出～横ばい圏で推移している（先行き:緩やかに持ち直し）

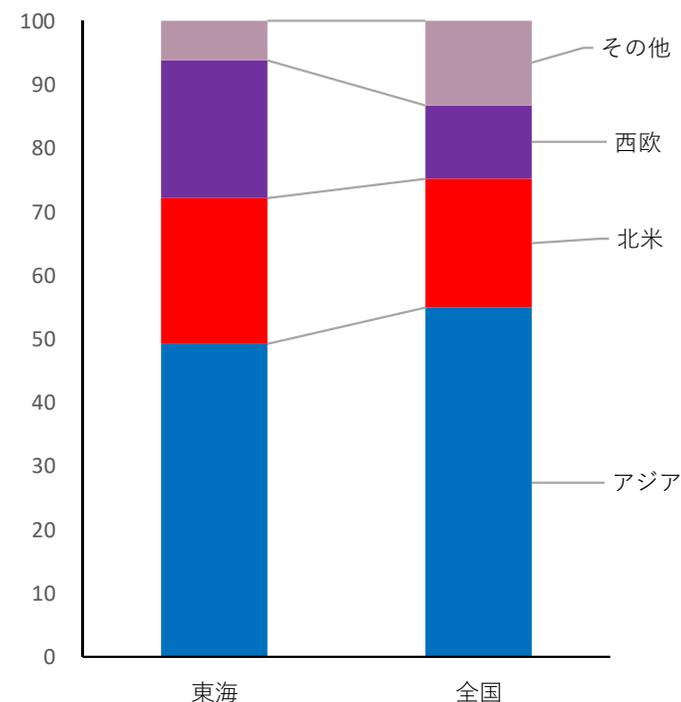
■ 実質輸出

- 2月の実質輸出(季調済)は前月比+8.2%と高めの伸びとなった。東海の輸出は均して見ると横ばい圏で推移している。



(出所) 日本銀行名古屋支店「実質輸出入」

輸出額地域別シェア(2018年)



【特色】 東海は全国と比べ欧米のシェアが大きい。

(出所) 財務省「貿易統計」

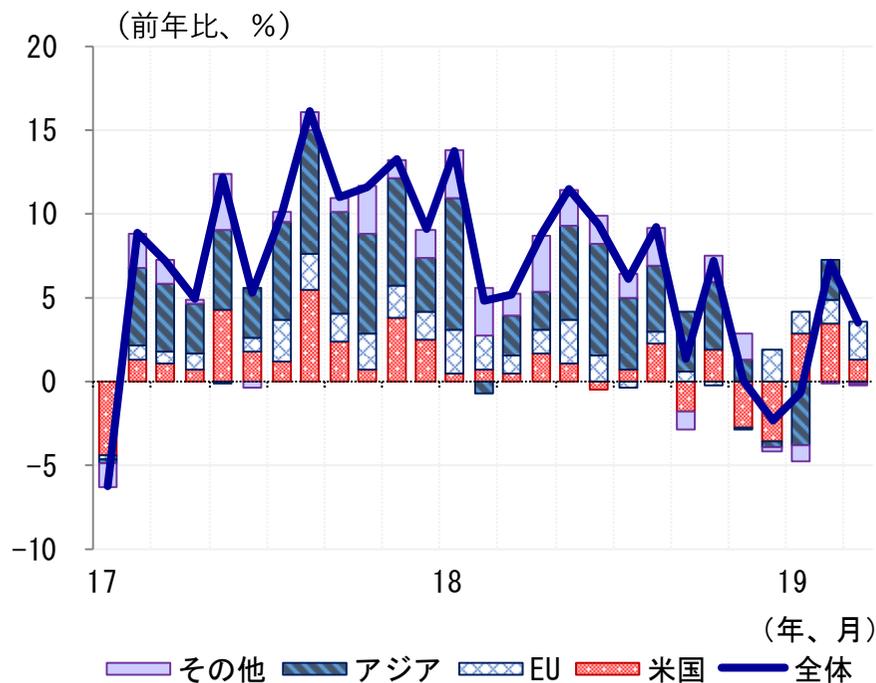
3. 輸出

コメント、グラフ共に前回から変更なし

■ 貿易統計：名目輸出

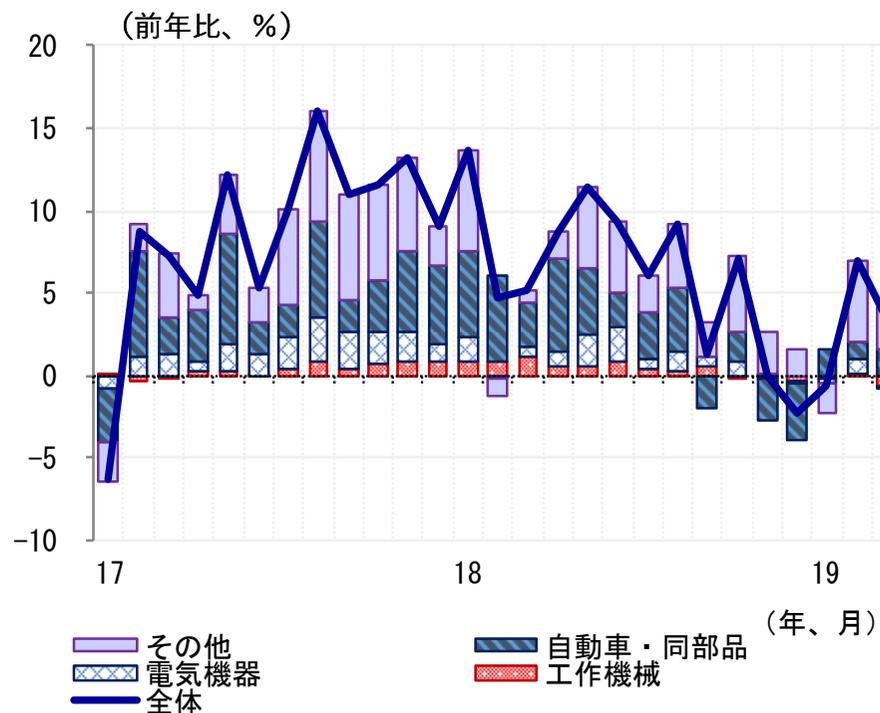
- 3月の名古屋税関管内の**名目輸出額**は前年比+3.4%と2ヶ月連続で増加した。地域別にみると、アジア向けが同-0.3%と減少したが、欧州向け(同+16.3%)米国向け(同+4.6%)が増加した。
- 品目別では、工作機械、電気機器が減少となる一方、自動車、その他が増加した。

名目輸出(地域別寄与度)



(出所) 財務省「貿易統計」

名目輸出(品目別寄与度)

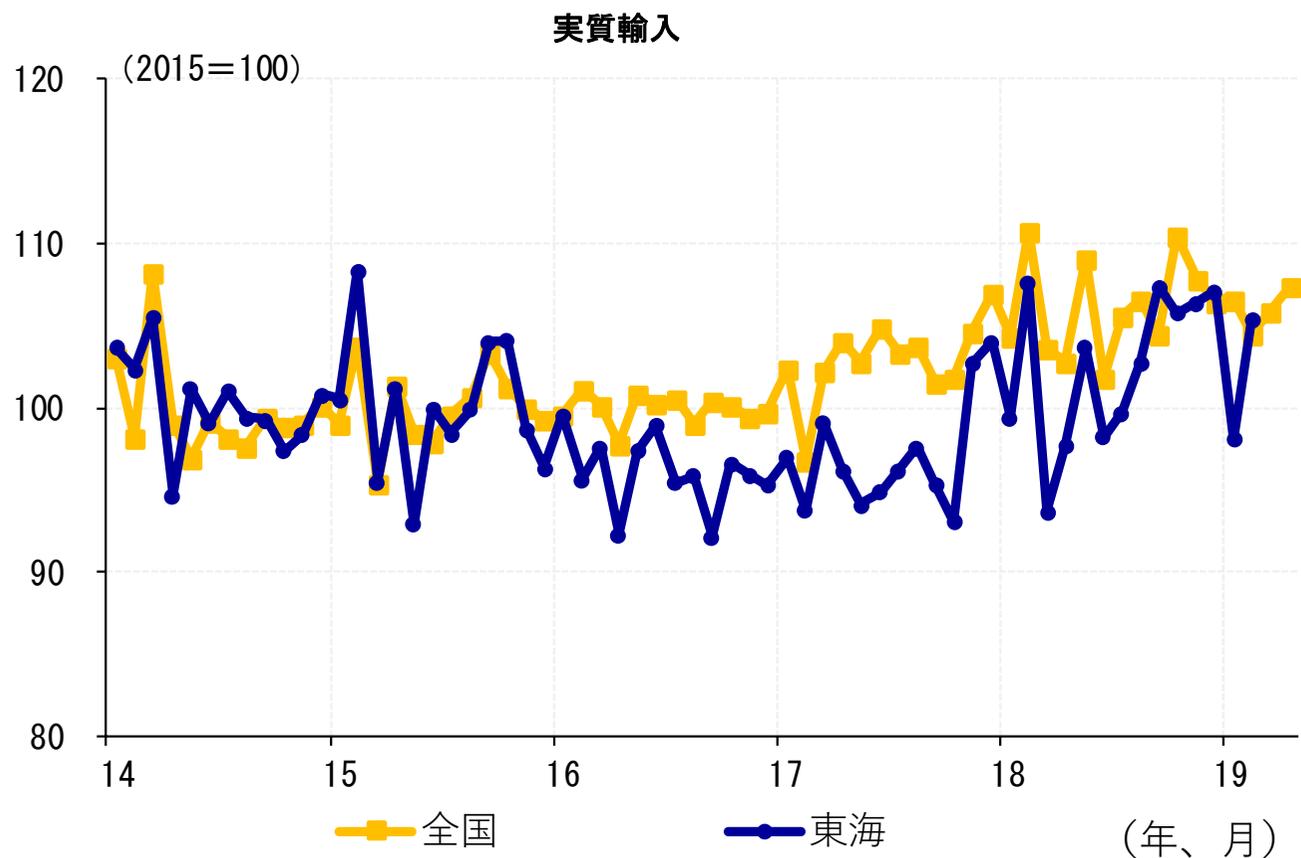


(出所) 財務省「貿易統計」

4. 輸入～横ばい圏で推移している（先行き:横ばい）

■ 実質輸入

- 2月の実質輸入（季調済）は、前月比+7.5%と2ヶ月ぶりに増加した。東海地方の輸入は均して見ると横ばい圏で推移している。



(出所) 日本銀行名古屋支店「実質輸出入」

5. 設備投資 ～増加している(先行き:増加)

コメント、グラフ共に前回から変更なし

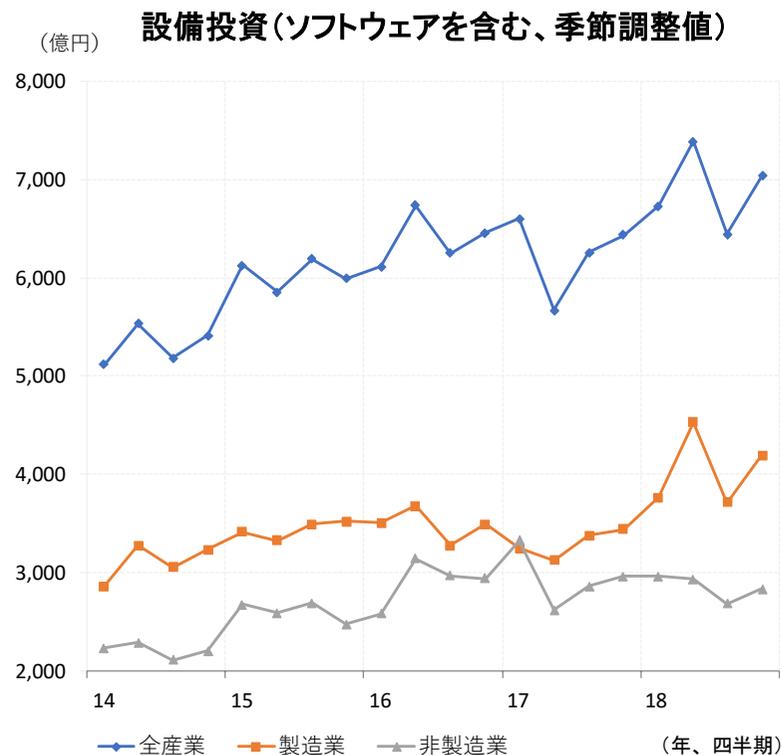
■法人企業統計

- 2018年10-12月期の東海4県の大企業の設備投資(ソフトウェアを含む)は、前年比+9.5%と4四半期連続で増加した。内訳をみると、非製造業は同-4.6%と減少が続いたが、製造業は同+22.3%と伸び幅が拡大し全体を押し上げた。
- 季節調整値(MURC試算)の動きを見ると、増加ペースに一服感がみられる。

設備投資の前年比伸び率 (全産業、%)

	東海	全国
17年10-12月	-0.6	4.3
18年1-3月	2.3	3.4
4-6月	31.0	12.8
7-9月	2.3	4.5
10-12月	9.5	5.7

(出所) 財務省「法人企業統計調査」



(注) 季調はMURC

(出所) 財務省「法人企業統計調査」

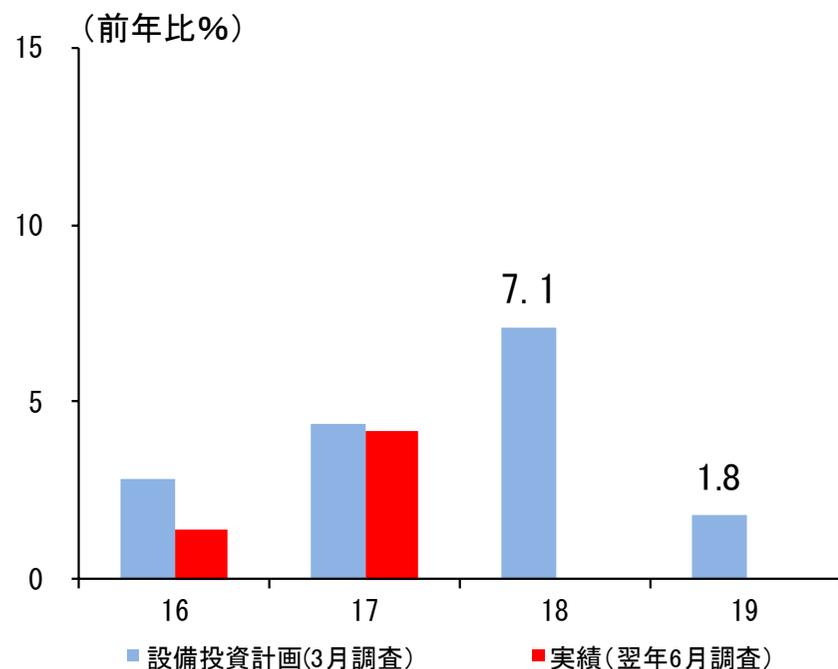
5. 設備投資

コメント、グラフ共に前回から変更なし

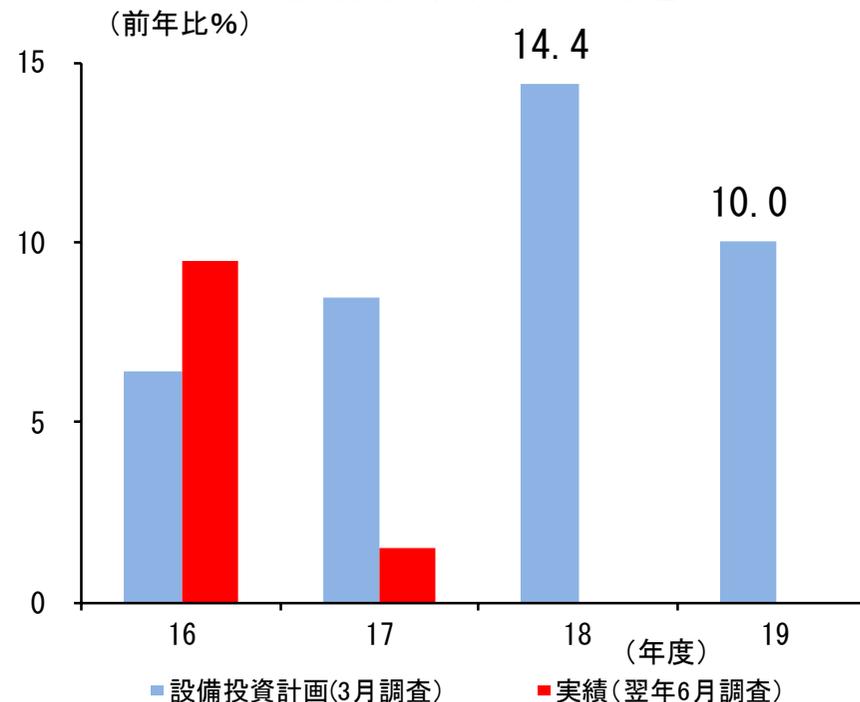
■ 日銀短観

- 日銀短観3月調査によると、東海3県の18年度の設備投資は全産業で前年比+9.1%（12月調査：同+9.8%）と、17年度実績（同+3.4%）を上回る見込みである。内訳をみると、非製造業が同+14.4%（17年度実績：同+1.5%）、製造業は同+7.1%（17年度実績：同+4.2%）と見込まれている。19年度計画は、全産業同+4.2%、製造業同+1.8%、非製造業同+10.0%となっている。

設備投資計画と実績（製造業）



設備投資計画と実績（非製造業）



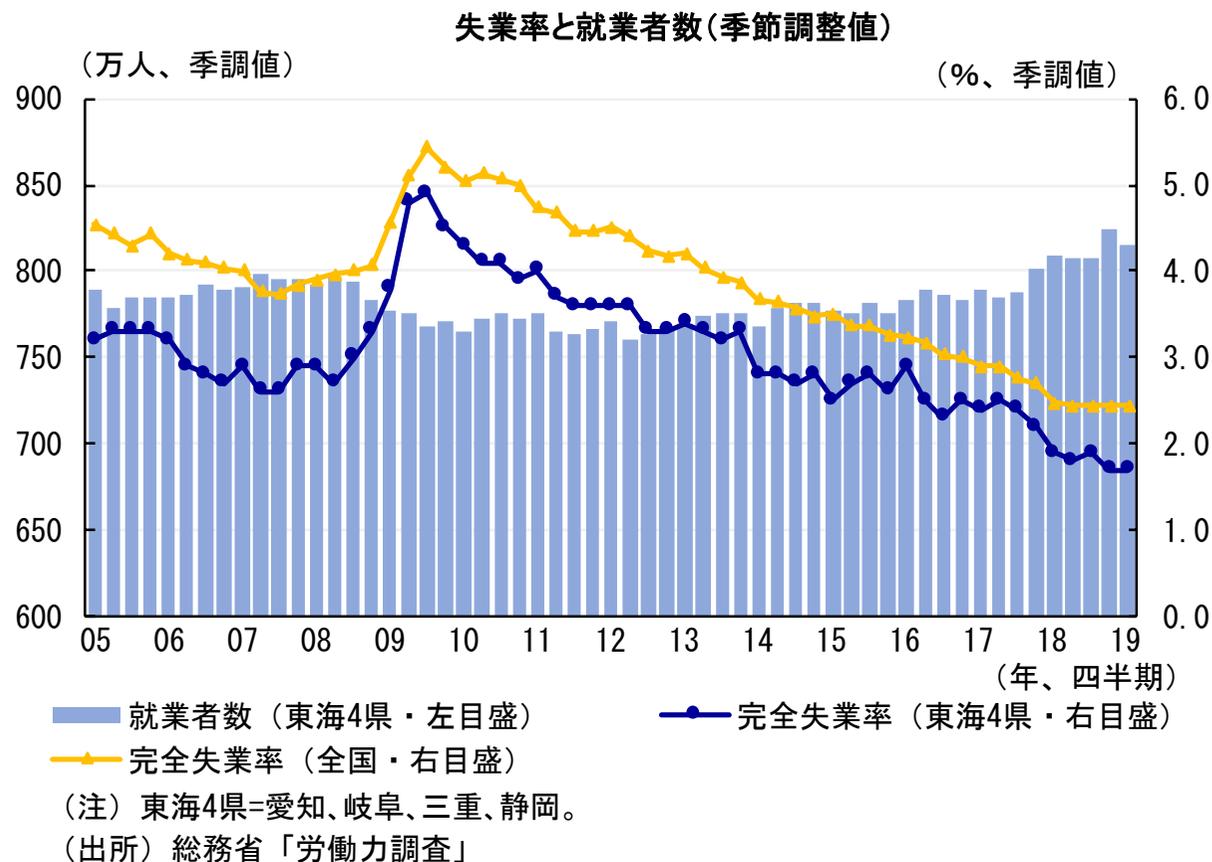
(注)設備投資はソフトウェアと研究開発費を含む。土地投資額を除く。2016年度は実績値のみ。

(出所)日本銀行名古屋支店「短観」

6. 雇用 ～改善している（先行き:改善）

■ 完全失業率

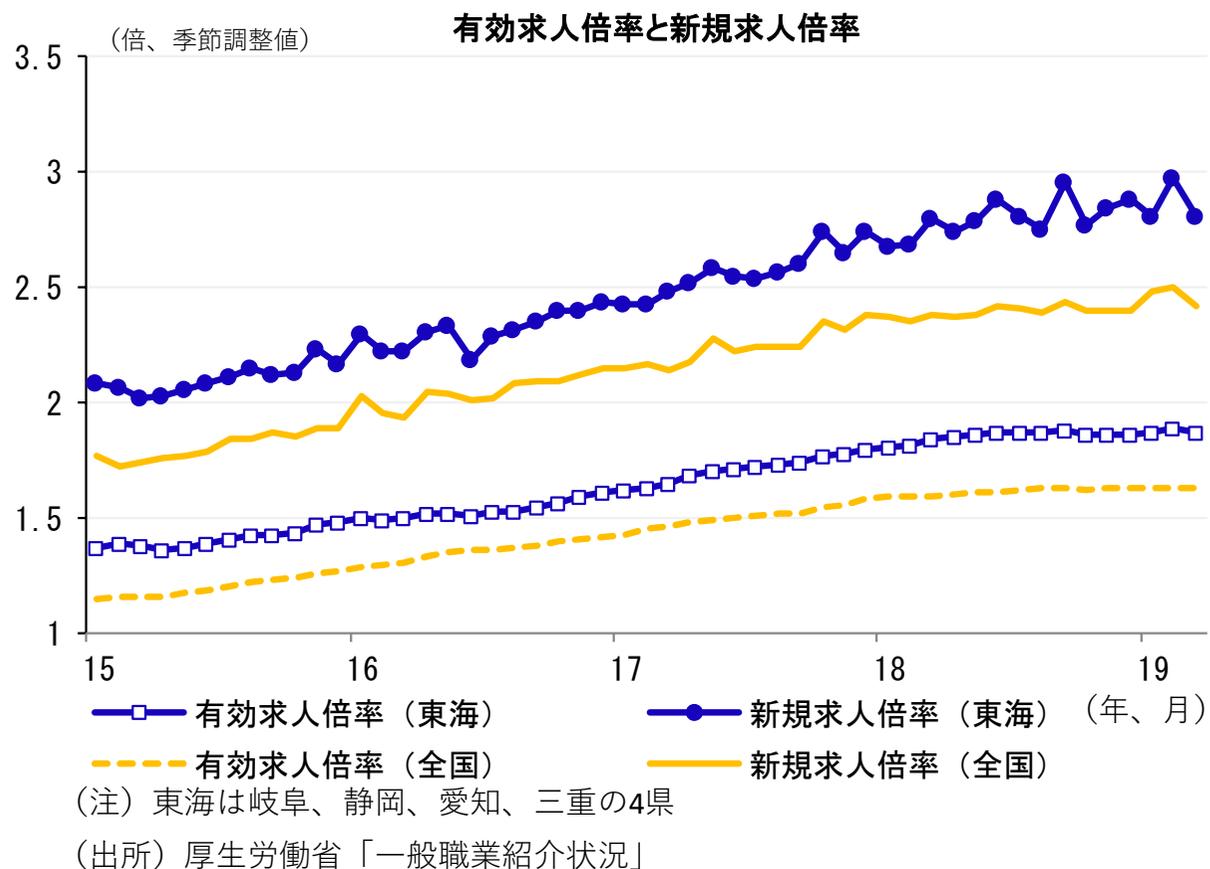
- 労働需給はタイトな状況が続いている。2019年1～3月期の東海4県の**完全失業率**は1.7%と前年同期から0.2%ポイント低下。全国(2.4%)を下回り、地域別でみて最低水準だった。
- 同時期の**完全失業者**は前年同期差－1万人と減少、一方、**就業者数**は同＋6万人と増加した。



6. 雇用

■ 求人倍率

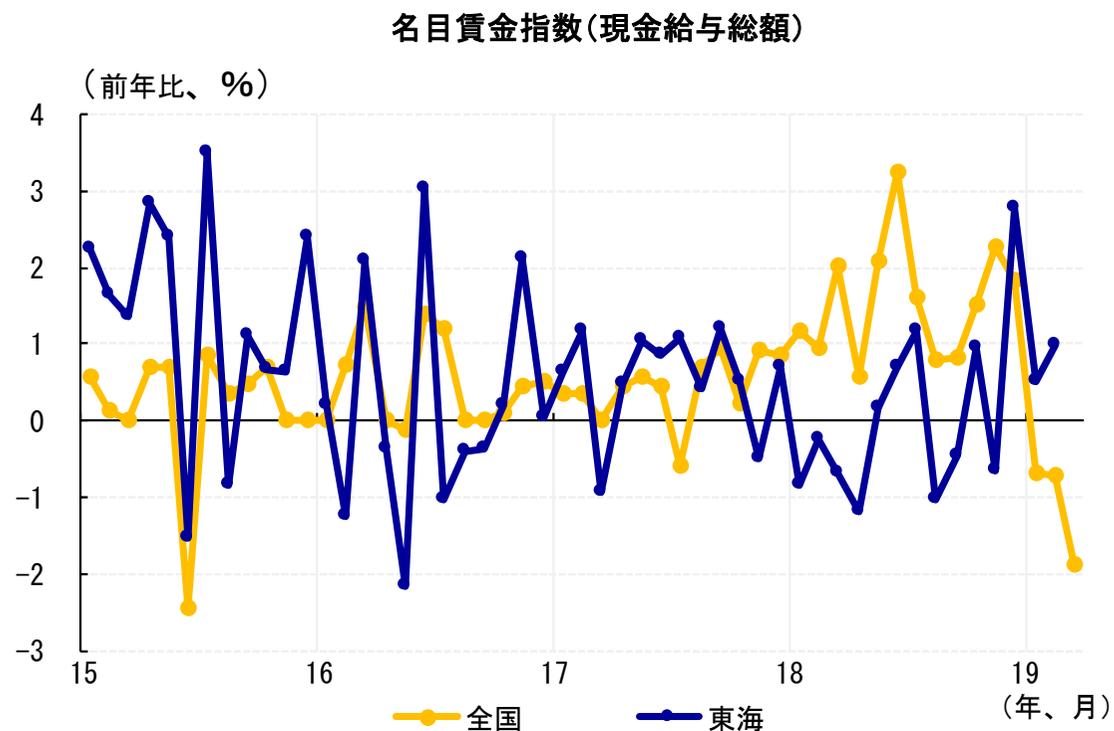
- 3月の東海4県の有効求人倍率(季節調整値)は1.87倍と、3カ月ぶりに前月から小幅低下した。有効求職者数が増加し、有効求人数が減少した。
- 有効求人倍率に先行する新規求人倍率は、2.81倍と、前月(2.97倍)から低下した。



7. 賃金 ～持ち直しの動きがみられる（先行き:持ち直し）

■名目賃金指数

- 東海3県の2月の名目賃金指数(現金給与総額)は前年比+1.0%と、3ヶ月連続で増加した。県別にみると、常用労働者数の約7割を占める愛知が前年比+0.6%とプラスの伸びになったことに加え、岐阜、三重も増加した。

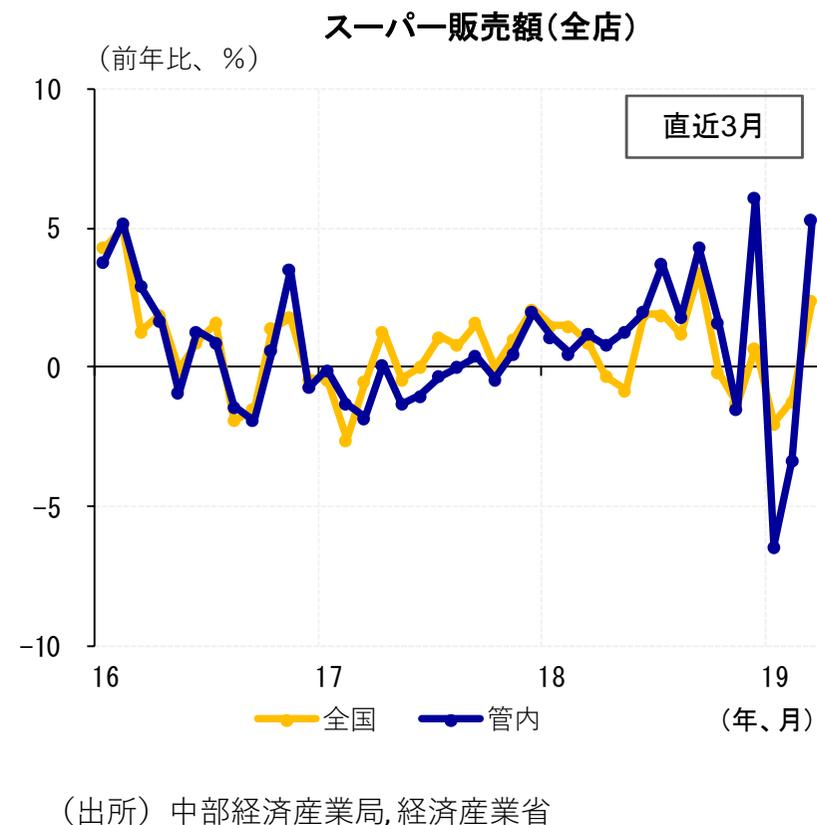
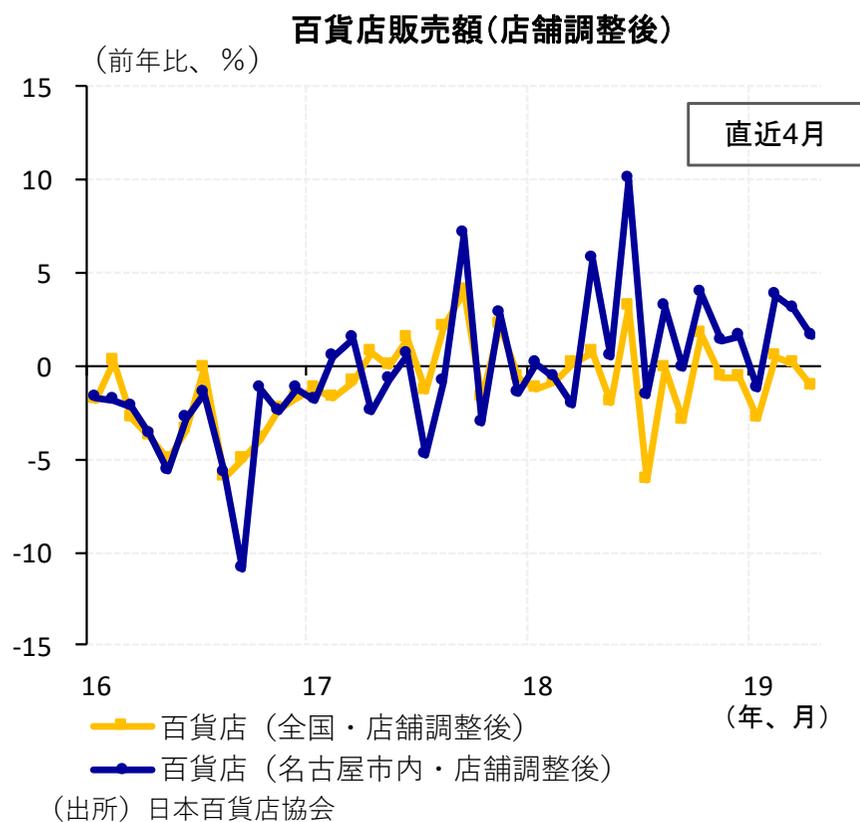


(注) 東海3県(愛知、岐阜、三重)の指数はMURC試算。常用労働者数で按分し合成。

8. 個人消費 ～持ち直しの動きがみられる（先行き:緩やかに持ち直し）

■小売店販売額

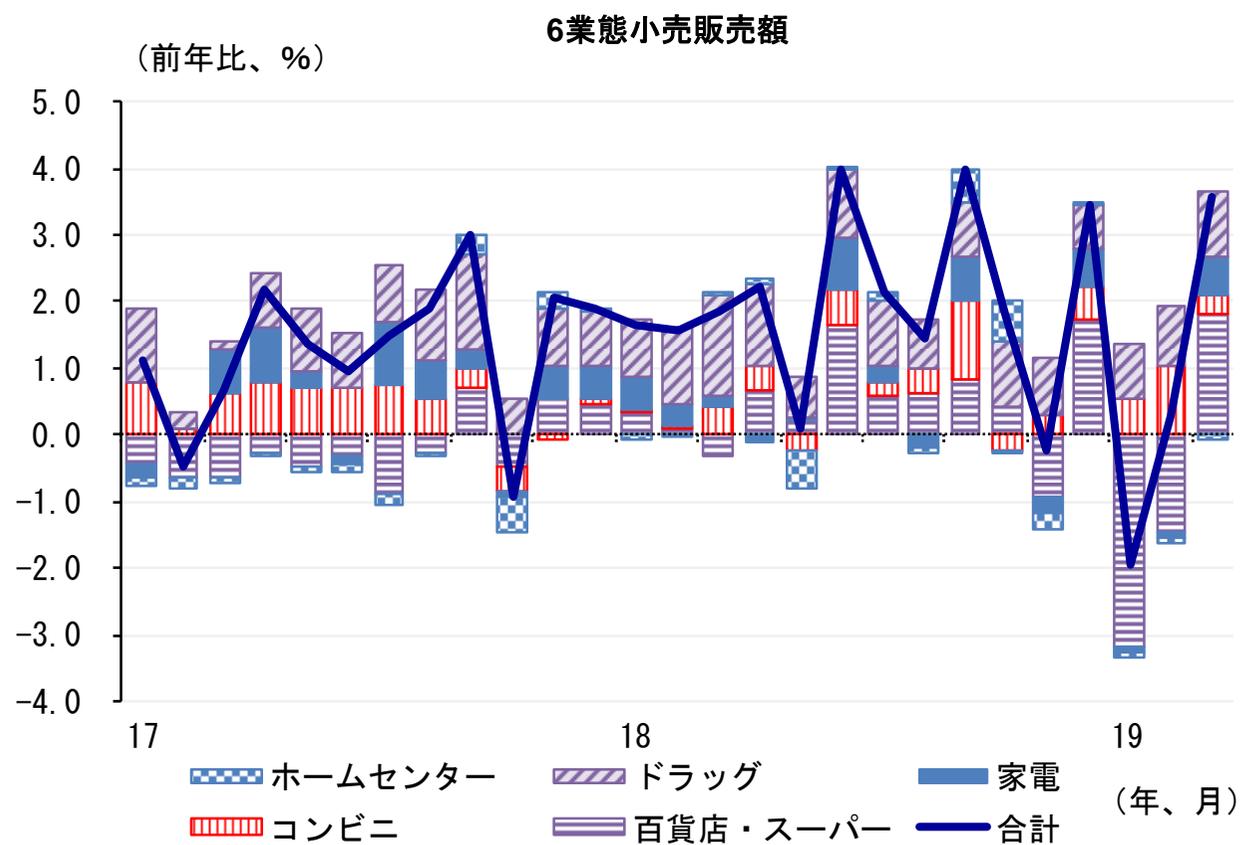
- 4月の名古屋市内の百貨店販売額(店舗調整後)は前年比+1.6%と3ヶ月連続で増加した。連休前の手土産需要もあって食品部門が好調であった。
- 3月の中部5県のスーパー売上高(全店)は同+5.3%と3ヶ月ぶりに増加した。このところ減少していた飲食料品が増加に転じたほか、衣料品も好調だった。



8. 個人消費

■ 商業動態統計

- 3月の商業動態統計調査6業態の販売額(東海3県)は、前年比+3.6%と2ヶ月連続で増加した。
- 百貨店・スーパーが増加に転じ、6業態すべてがプラス寄与となった。

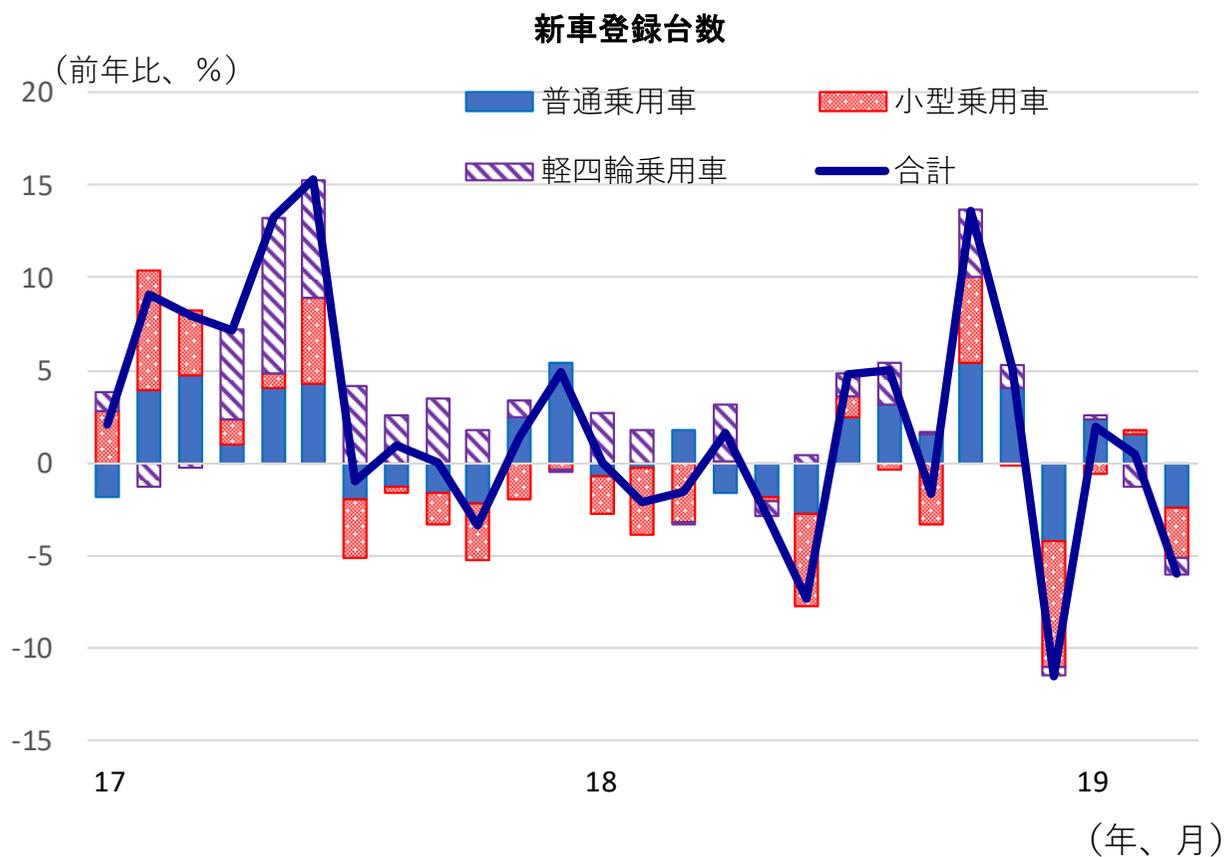


(出所)経済産業省「商業動態統計調査」

8. 個人消費

■ 新車登録台数(乗用車、含む軽)

- 3月の東海3県の新車登録台数(乗用車、含む軽)は、前年比-6.0%と3ヶ月ぶりに減少した。
- 内訳を見ると、小型自動車(同-9.5%)、普通乗用車(同-5.7%)、軽四輪乗用車(同-2.9%)と軒並み減少した。



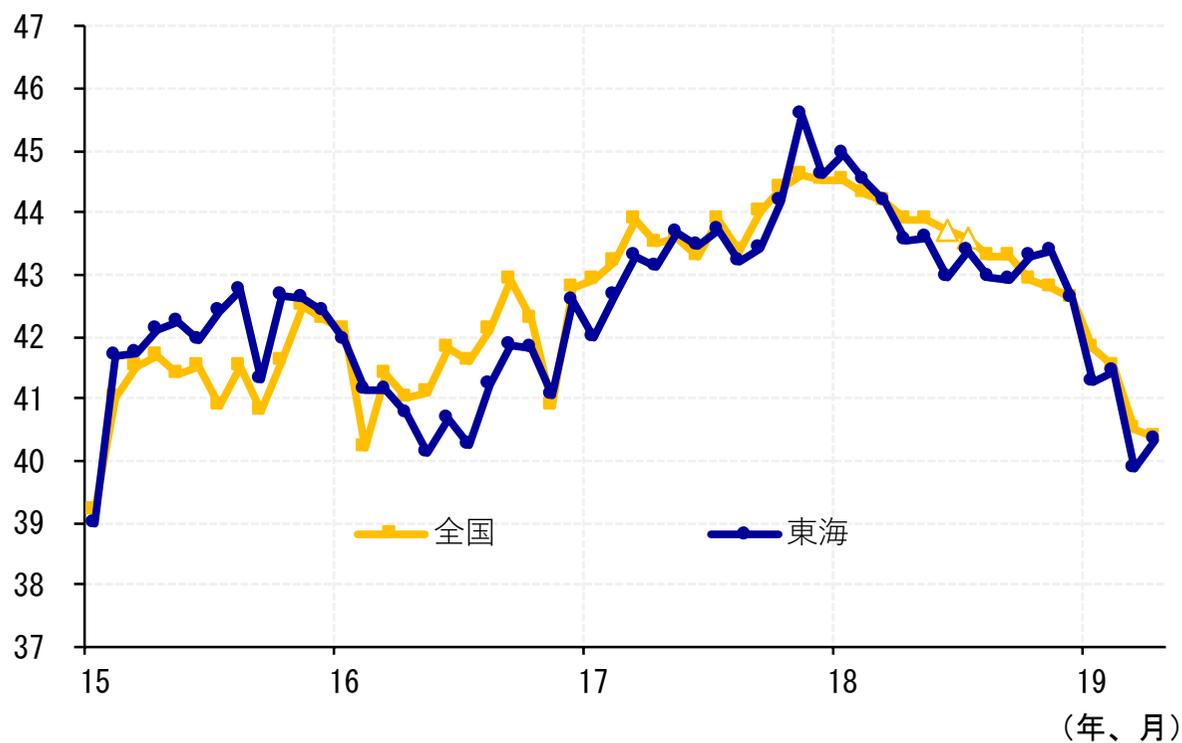
(出所) 全国軽自動車協会連合会、日本自動車販売協会連合会よりMURC作成

8. 個人消費

■ 消費者マインド

- 消費者マインドを表す**消費者態度指数**(季節調整値:MURC試算値)は、18年後半に横ばいで推移した後、19年に入り大きく低下、4月は前月比で増加となったが低水準で推移している。

消費者態度指数(二人以上の世帯、季節調整値)



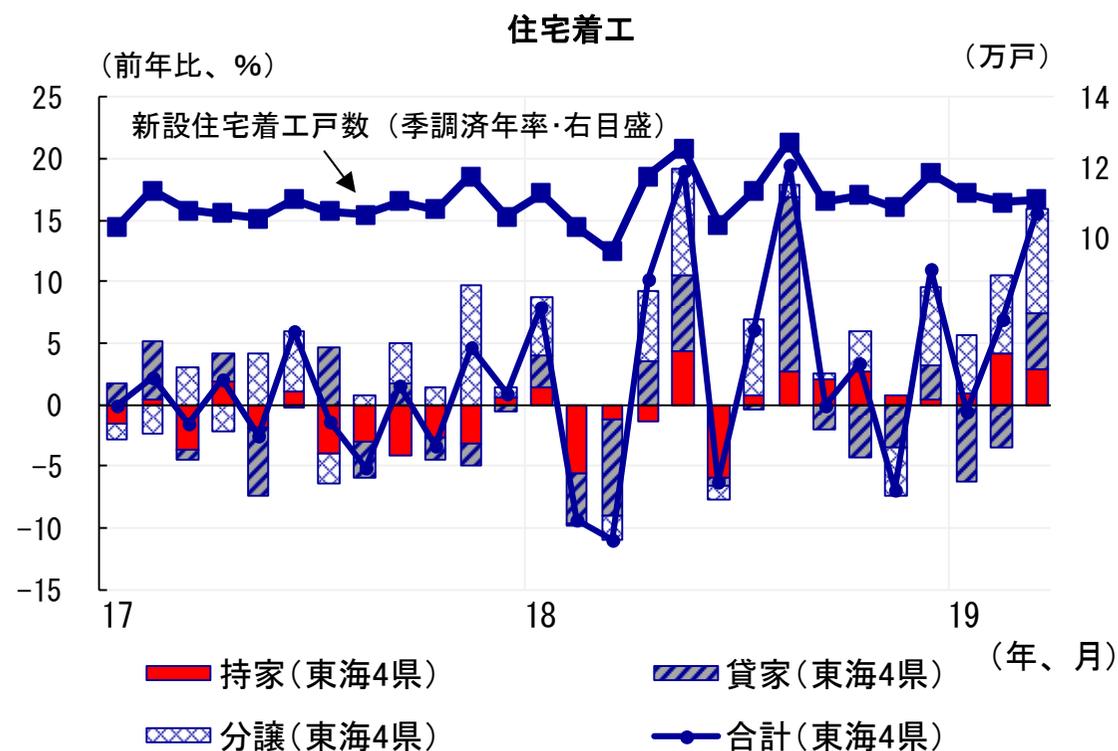
(注) 東海の季節調整値はMURC試算

(出所) 内閣府「消費動向調査」

9. 住宅投資～ 横ばい圏で推移している（先行き:横ばい）

■住宅着工

- 3月の東海4県の住宅着工戸数は、季調済年率で(MURC試算)11.1万戸、均して見ると横ばい圏で推移している。
- 原数値では9,196戸、前年比+15.5%と高い伸びとなった。貸家、持家、分譲のいずれも増加した。前年同月の水準が低かったことに加え、消費税率引き上げ前の駆け込みもあったと考えられる。



(注) 東海4県＝愛知、岐阜、三重、静岡。季節調整は当社による。
 (出所) 国土交通省「建築着工統計」

10. 公共投資 ～増加している（先行き：横ばい）

■ 公共工事請負額

- 東海3県の4月の公共工事請負額(年度累計)は前年比+16.4%となった。昨年同月(同+21.9%)は下回るものの、2年連続で新年度を二桁台の伸びでスタートした。



(注) 東海＝愛知、岐阜、三重の3県。

(出所) 保証事業会社協会、北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail:chosa-report@murc.jp
〒108-8501
東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください